

第3回洞爺湖芸術館あり方検討委員会 会議録概要版

令和7年2月20日

第3回 洞爺湖芸術館あり方検討委員会				
開催年月日	令和7年2月20日			
場 所	洞爺総合センター 2階 青年研修室			
開会閉会の 日 時	開 会	令和7年2月20日 午後4時00分		
	閉 会	令和7年2月20日 午後5時00分		
委 員 員 出席 11名 欠席 1名	委 員 長	木村 省平	社会教育委員 委員長	出・欠
	副 委 員 長	加藤 亮子	洞爺湖芸術館友の会 会長	出・欠
	委 員	新井 知子	洞爺湖芸術館友の会 副会長	出・欠
	〃	五十嵐 優子	地域住民	出・欠
	〃	小川 裕司	一般社団法人洞爺湖温泉観光協会 理事	出・欠
	〃	片岡 一之	洞爺湖町商工会 副会長	出・欠
	〃	星川 志津子	NPO 法人 洞爺まちづくり観光協会	出・欠
	オブザーバー	久米 淳之	北海道立近代美術館 上席専門員	出・欠
	教育長	渋川 賢一		出・欠
	課 長	角田 隆志		出・欠
	係 長	黒澤 博美		出・欠
	主 事	小八木 香菜子		出・欠
	会議次第	1. 開 会 2. 趣旨説明 I 芸術館の役割 II 活性化策 1. 作品に関する活性化策 2. 施設に関する活性化策 3. 運営に関する活性化策 3. 閉 会		
A委員	1. 開会 (委員長挨拶) 2. 趣旨説明 1. 作品に関する活性化策 2. 施設に関する活性化策 3. 運営に関する活性化策 (事務局より資料に沿って説明) 夢のある事業が減少していると感じている。子どもたちのためにも、過去の国際彫刻ビエンナーレの再開や芸術・文化施設の充実を長期的に考えてほしい。また、芸術館裏の土地を取得すれば、芸術ロードとして活用できる可能性があり、交渉する価値があると考え。			
B委員	前提として芸術館はどの層に向けた施設なのか。 地域住民を対象とするのであれば、小中学生向けに「手のひらの宇宙」のような取り組みを試し、町内で展示することで、地域の人々を巻き込みながら芸術への関心を育てていくのはどうか。			

C委員	<p>過去に国際彫刻ビエンナーレの再開を検討したが、実現には至らなかった。しかし、今ならネットの普及もあり、少ない予算でも再挑戦できる可能性があると考えている。</p> <p>子どもたちの作品展示は過去に実施したが、継続性に課題があって終了した経緯がある。再開するのであれば、地域住民に芸術館の存在を意識してもらい、作る楽しさや継続的な関わりを生む仕組みの工夫が必要。</p>
B委員	<p>コンセプトが素晴らしくても時代にそぐわない場合もある。過去の素地を活かして改善し実施すれば、より良い結果が得られるかもしれない。そのためには、この施設が誰に向けているのかを明確にすることが重要。</p>
事務局	<p>芸術館は地域活性化を目的としてきたが、今後はいただいた意見を基に、対象を明確にし、地元の子供たちや学校との連携を強化しながら、継続可能な形にしていきたいと考えている。</p>
D委員	<p>まずは町内の人々をターゲットにし、芸術館の認知度を高めるべき。</p> <p>プロジェクトチームなど、意見をまとめられるような仕組みがあれば良いのではないかと。ビエンナーレの再開についても、予算を考慮しながら復活させる方策を検討できればと思う。</p>
E委員	<p>2019年と2022年の入館者数が増加しているが何か要因があったのか、また年間の入館者数の目標は設定されているのか。</p>
事務局	<p>特別展とワークショップの回数が多いことが主な要因だと考えられる。</p>
C委員	<p>2020年と2021年はコロナの影響で来館者数が少なかった。</p> <p>2019年から2023年までは、特別展を年3回と、ワークショップや演奏会等の開催の影響から来場者数が多い。特に2023年は5000人を超えた。今後も集客と地元の関心を高めるためにも、年2回以上の特別展、特に砂澤ビッキ関連の作品展を開催していただきたい。</p>
F委員	<p>友の会が指定管理で運営していた頃にはさまざまな取り組みが行われていた。現在、学芸員1名でこれだけの取り組みは出来ないため、友の会を含むプロジェクトチームを組んで共に活動を進めれば、以前のように芸術館を盛り上げることができるのではないかと。子どもの作品展示も良いアイデアだと思う。</p>
G委員	<p>洞爺湖芸術館は特に虻田・温泉地区の町民に十分に認知されていないと感じた。特別展やワークショップを通じて地域の人々や子どもたちを巻き込むことが重要。また、地元のアーティストやお店と連携し、地域全体で集客を増やすことが効果的だと思う。</p>
D委員	<p>ビエンナーレのような大きな事業を1年おきを実施してはどうか。また、温泉地区との連携や地元のお店の商品販売など、地域連携を強化することが重要だと考える。</p>
C委員	<p>特別展は作家との繋がりを大切にし、新たな才能を発見し、質の高い作品を展示して、誰もが良かったと思える展覧会を目指してほしい。</p>

A委員	<p>コロナ時期、芸術館の演奏会でとても癒された。 作品を楽しみながら、コーヒーを飲み、湖水を眺めてリラックスできるような、癒しの空間であってほしい。</p>
D委員	<p>ビエンナーレが世界の新人発掘の場であったように、無名でも良い作品を展示することで、費用を抑えつつ質の高い展示を実現できるのではないかと思う。</p>
B委員	<p>来館者については、コロナ時期を含めないデータを比較する方が、運営状況を評価する上で現実的で有効だと思う。</p>
C委員	<p>少しずつ入館者が増え、芸術の森や近代美術館との繋がりも深まり、認識が広がってきた。</p>
B委員	<p>入館者を増やすためには、ホテルのラウンジ等にフライヤーや写真を置くことが効果的だが、おそらく効果の持続力に限界がある。長期的には地元との繋がりを深めることが重要。芸術館に興味がありそうな客層の宿泊施設にアプローチできれば効果的かもしれない。</p> <p>(教育長挨拶)</p> <p>3. 閉会</p>